

令和7年度都立大山高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
国語	・「書くこと」の指導の充実 ・「話すこと・聞くこと」の指導の充実	・年度当初の教科会で年間指導計画について共有、指導事項について確認 ・「話し合うこと」の指導をはじめとする言語活動に関する科内研修の実施	・漢字検定、日本語検定の実施 ・ビブリオバトル都大会への参加
地歴公民	・基礎的内容の徹底 ・社会的事象の意義を実感させる	・必要に応じて課題を設定する。 ・複数の教員で担当している教科については、連絡を密にする。	・長期休業期間に、大学進学を見据えた講座を開設する。
数学	・基本計算 ・数学的な見方	・基本計算の定着のための寺子屋（週1回）の実施 ・学びの有用感を得る教材開発	・大学受験を見据えた演習に取り組む発展講座の実施 ・問題解決の過程を振り返り、考察を深める授業を実施
理科	・基本事項の徹底 ・科学の楽しさを伝える	・必要に応じて課題を設定する。 ・実験の充実や、身近な応用例の紹介を意識した授業を展開する。	・講習や個別対応を充実させ、苦手克服から大学進学対策まで広く対応する。
保健体育	生涯にわたリスポーツを楽しむ資質や能力を育てる	・男女共習の授業の中で性別や体格、能力の差を超えて運動を楽しむ指導を実践する。 ・選択制の授業を導入し、意欲的に授業に取り組めるようにする。 ・学習カードやICTを活用し、自身の活動を客観的に振り返ることができる工夫をしている。	・男女教習で行う際のゲームのルール作りを行う。 ・生徒が3年間の学習計画を立て、個々が系統的に発展できるような種目を選択するよう指導する。 ・学習カードや一人1台端末を、自宅学習に活用できるよう指導する。
芸術	学びに向かう力、人間性等」を育む	「連想する力」を培い、自己の思い描くイメージを作品や音と関連付けて表現し、また、言葉で人に伝える力を育成する。	観察する力、予測する力、創作する力を芸術を通して学び、予測不可能な未来に持続可能な社会の担い手となり得る人材を育てる。
外国語	大山高校の英語科として「組織的に」生徒の英語力の向上を図る	・全学年において、週一回程度、英単語テストを行い、語彙力の向上に努める。 ・担当者間での会議をこまめに行い、授業の進捗、内容、評価方法を検討する。 ・実用英語技能検定等、外部の試験の受験を促し、必要に応じて個別指導を行う。	・希望者対象に7時間目の発展英語演習で、応用力の養成を目指した授業を実施する。 ・長期休業中の講習を計画し、各学力層の生徒の英語力に努める。
家庭	・基本的知識の習得 ・基礎的基礎的技術の習得	・身近な題材を例に、日常生活と結び付けた授業を展開する。 ・映像の活用や、達成感が得られやすい教材の選定により指導を行う。	・ホームプロジェクトによる学びの発展 ・個に応じた指導の充実
情報	今後益々進展する情報化社会に対応する人間育成	・毎授業終了前に、振り返りのための確認テストを実施し、基礎知識の定着を図る。	情報社会に参画する人材を育成するため、2学年選択科目「情報応用」において、ICTプロフィシエンシー検定試験（P検）を受験させる。